

うのはわかります、私も。だけど申し上げましたようにね、平野と西根がなるときに、私はこういうふうにするのが本当はあるべき姿として、教育委員会がやっぱりちゃんとしなければならぬんじゃないかというふうに申し上げてきています。市長もそうだと答弁されているんです。6月みたいに何年間の空白がどうのこうのと私は言いませんけれども、やっぱりそういう、何ていいますかね、準備というかね、研究というのは私は大切なことだと思うんです。

何か聞いてますと、あれもできないから、これもわからないから、あれもこれもと大変なことばかり言って、そういうふうに聞くと、やりたくないのかなという感じを私は受けるわけです。よく言われる、岩國哲人さんなんかも言ってますが、公務員の悪いところは、やりたくないこと等含めて、やれないことをいっぱい出して、だからだめなんだと、こういうふうに言うのが一番悪いと言ってますけども、そうはならないと思うんですね。残された期間でとにかく準備をしなきゃいけないわけです。その際は、今、教育長がおっしゃるように、すぐにスタートできるか、あるいはとりあえず長井小学校から始めるか、地域の実情を見ながらというのは私は賛成です。そういうことで、私は計画立案というかね、検討に入ってもらいたい。その際は、そっちは福祉事務所だから、こっちはこっちだからって絶対ならないように私はしてもらいたい。トータルでいいものをつくっていかないと、これは何にもならないわけで、決意表明みたいになって、求めるみたいで恐縮ですけども、そこだけきょうは明らかにしていただいて、私は質問を終わりたいと思います。

○大沼 久議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 この子どもプランへの教育委員会の考え方として、このプランをマイナス方向で受けとめているわけでは決してありません。いい事業だと思っておりますし、さっきも申し

上げましたけども、少子化対策、子育て支援のためには、やっぱり保護者にとっては大変いい事業だろうというふうに思います。こういう方向で進めていかなければならないわけですが、現実的にはそういういろんな問題も出てくるだろうと、それをクリアしながら、やっぱりこの方向に向けて、学校を使うことを拒否しているわけでも何でもなし、学校を使ってもらって大いに結構なんですけど、何か事が起こると責任問題がどうだこうだと必ずなるんですよ。非常にあいまいな形でスタートすれば、そういう問題は必ず残ってきますので、そういういろんな課題を出しながら、それをクリアしながらこの事業を進めていかなければならないというふうに考えているだけで、決して後ろ向きの姿勢ではありません。

○大沼 久議長 平 英一福祉事務所長。

○平 英一福祉事務所長 議員おっしゃるとおり、一番大事なことでありました。来月の市報に園児の募集を出す予定でありますので、あわせて移管についての広告をしていきたいと思っております。

谷口栄子議員の質問

○大沼 久議長 次に、順位4番、議席番号4番、谷口栄子議員。

(4番谷口栄子議員登壇)

○4番 谷口栄子議員 9月定例会に当たり、通告しております2点について、順次質問させていただきます。答弁は、目黒市長、大滝教育長、齋藤商工観光課長、船山健康課長にお願いいたします。

質問に入る前に、初めに、長井市の再生に尽力されております目黒市長の2期8年は、道半ばではないかと多くの市民が思っています。私

も同じです。長井市の発展のために、真の再生はこれからではないかと思えます。ぜひリーダーシップを図るべき3期目の出馬を期待いたします。

きょうは紀子様のご出産おめでとうございます。男のお子様のご誕生のニュースに、多くの国民が喜んでおります。41年ぶりに皇室に男子誕生です。心からお祝いを申し上げます。

実は、我が家にも4月、男の孫が生まれまして。同級生になりますので大変うれしく思っております。

それでは、質問に入らせていただきます。

1点目、子供たちの食について。

1つ、食育推進の取り組みについて質問いたします。

6月30日号市報で「あなたの食事は大丈夫？」が紹介されております。今なぜ食の教育が必要なのでしょう。食は豊かになり、食べることが便利になり、一人で好きなものばかりを食べる傾向が見られるなど、食の環境が大きく変化しています。

食べることは呼吸することと同じく命そのものに直結しています。だからこそ食への正しい知識、食育が大事です。しかし、食をめぐる現在の状況は大変厳しく、すべての年代でさまざまな問題を抱えています。一人一人が以前にも増して正しく食べることを認識しなければならない時代になってきたのです。

日本人の摂取するエネルギーのうち、脂肪の占める比率は、1950年から1990年までの40年間で、8%から25%へと3倍以上にふえていると言われております。やはり油の多い食べ物はおいしいからでしょうか。特に子供たちは好んで食べていることで、肥満児の割合も全国的にふえ続けていると言われます。油たっぷりの食品や砂糖を水に溶かしただけの飲料水やスナック菓子がはんらんしております。このようなエネルギーだけで空腹感を満たしてしまうと、ほか

の食べ物が食べられなくなって、栄養のバランスが崩れてしまうと言われます。

エネルギーをとり過ぎて太ると糖尿病になってしまうのです。肥満になると、日本人は欧米人よりも糖尿病になりやすいことがわかっているそうです。手間がかからず便利だからと外食や加工食品をとり過ぎると、高血圧を初め脳卒中、心筋梗塞などの重大な病気の原因となります。いわゆる生活習慣病です。

病気を防ぐために食生活の改善が重要視されています。特に朝食をとらない子供や肥満傾向の子供がふえていることから、食は子供の未来にとってとても大切なことで、食育は将来にわたって健康に生活していくために、栄養のバランスのとれた食事と望ましい食習慣が求められております。

昨年7月、食育基本法が施行され、ことし3月には食育推進計画も策定されました。本市の食育推進計画と取り組みを目黒市長に伺います。

次に、栄養教諭の学校配置について質問いたします。

学校現場で給食の管理や子供の食生活について教育を担う栄養教諭制度は、学校教育法の改正で、昨年度からスタートしています。栄養教諭の役割が重要視されているのです。

給食に出る食材が体内でどういう働きをするのかわかりやすく説明したり、児童の嫌いな食べ物もなぜ体に必要なのか丁寧に教えたり、朝食欠食児童の減少に努力されている函館市立八幡小学校栄養教諭、保坂静子氏の実践事例発表が先日、山形新聞の7月28日付に「食育を考えよう」をテーマに紹介されています。学校での食育の大切な役割を担う栄養教諭をぜひ市内小・中学校に配置すべきと思いますが、いかがでしょうか。大滝教育長にお伺いいたします。

次に、食生活と心のバランスについて質問いたします。

日本スポーツ振興センターの調査で、朝食を

+

食べない子供が、①ほとんど食べない、4.5%、②食べないこともたまにあるを含め、2割とのデータがあります。

文部科学省は、朝食欠食については、平成22年までゼロ%にするという数字目標を出しております。さらに文部科学省は、早寝早起き朝ごはん運動を全国展開されております。

長井小学校での4月の入学式で、加藤孝嘉校長先生のお話の中で、早寝早起き朝ごはん運動が紹介されました。朝御飯をしっかりと食べて元気に登校しようと新入生に呼びかけられました。朝食をしっかりと食べることで体調、気力が向上し、学習意欲や成績、体力がアップすることが調査でも明らかになっているのです。さらに高齢者の知恵のよさを家庭ではどう受けとめればよいのかや、3世代同居の家庭では、3食を規則正しく食べているが70%、家族そろって食べるが60%、家庭での食の指導が自然と身につく環境にあるのに対し、核家族では、栄養のバランスや、はしを正しく持つなどマナーに気を付けているなどのアンケート結果も発表されております。

食育に関する書籍も書店にはたくさん並んでおります。「しっかりと食べてたくましく！じょうぶな子どもをつくる基本食」という幕内秀夫氏の本の中には、日本の伝統食が子供を守ると語っておられます。また、日本の食生活は豊かになったと盛んに言われています。確かに私たちの周りには食べ物があふれています。それで子供たちは健康になったかという、決してそうではありません。その証拠にアトピー性皮膚炎、ぜんそく、アレルギー性疾患の子供たちが急増しております。体格は大きくなったけれど、体力が落ちていると強調されております。日本人は日本人が昔から食べてきた御飯、みそ汁、漬物を基本にした和食に戻るべきだと主張しています。

また、子供の体を石炭ストーブに例え、石炭

ストーブの燃料は石炭ですから、今までずっと石炭を入れて火を燃やしていました。ところがこっちの方がパワーがあるからと、石炭ストーブに石油やガスを入れた結果、不完全燃焼を起こしたり故障してしまいました。これと同じことで、子供の体にはもともと穀類や芋類、野菜や豆類や魚介類を入れてきました。食生活の変化で、また、栄養教育の変化で、輸入小麦粉、砂糖、油、肉類、乳製品が大量に体に入ってきて、子供の体は不完全燃焼を起こしている。アトピー性皮膚炎や気管支ぜんそくなどの病気を抱え、何となく元気がなかったり、いつもだるそうにしている。そういう子供が目立っている。これが現代型栄養失調と言えると言っております。

現代型栄養失調の5つの原因として、1つ、塾通い、パソコン、テレビゲームなどに熱中し外遊びの少ない子供の運動量が減り、余りおながすいていないのにスナック菓子やクッキーといった口当たりのいいもの、甘い飲料水を幾らでも飲んでしまうので、子どもの肥満や食べ過ぎの問題が起きているというのです。

2つに、穀類や芋類、野菜や豆類、魚介類を中心にした食事が日本人の体質に合っているにもかかわらず、輸入小麦粉、砂糖、油、肉類、乳製品を多くとり、欧米型の食事となってしまったこと。

3つに、私たちの体にとって空気はビタミン、ミネラル類などの微量栄養素です。野菜を食べることは大事ですが、油脂類、白砂糖、精製塩、精製小麦粉、白米など余りにもふえ過ぎた精製食品が問題であるのだそうです。

4つに、便秘やそれに近い状況の人が大変多くなっている。それは穀類、芋類、豆類の食物繊維の不足が原因で起きている。

5つに、農薬、食品添加物といった化学物質が多量に体内に入っており、現代の病気などの問題点を考えるとき、自然食品の多い和食が大事となる。

以上のことから、幼児にも和食が一番で、御飯を中心にした食生活がよいのです。そして、おかずは残してもいいから、御飯をしっかり食べさせる。このことが子供の食事の基本であるというのです。そして飲み物ですぐれているのが水で、なぜすぐれているのかといえば、水には栄養もカロリーもないことが水のすばらしいところと言っています。

食生活全体の量を10と考えた場合、半分の5は主食、残りの半分を副食と考えて、副食の割合を1・1・3と目安を立てます。1・1・3とは、1が動物性食品、豆類・種子類が1で、季節の野菜・海藻類が3、正しい食生活で病気を防ごうと言われているのです。

古来より日本は米を主食に、野菜や魚介類を副食にして健康な長寿社会を実現してきました。神経ビタミンと言われたビタミンB1の欠乏サインとして、いらいらや情緒不安定、錯乱、混乱、うつ状態、無感動となってあらわれるというのです。また、ミネラルの一種のマグネシウムの精神面での欠乏は、精神異常、怒りっぽい、注意力散漫、著しい不安定となるそうです。これがビタミン、ミネラル不足のほんの一例と言われています。ファーストフードを初めとする、文明食とする不自然な食生活が、犯罪行動を生む根源とも考えられています。

そこで食生活と心のバランスについて、本市はどのような取り組みをなされているのか、船山健康課長に伺います。

2点目、花の長井のあやめまつりについて。

あやめまつりの総括について質問いたします。

ことしは豪雪で、あやめ公園の雪が消えるのも遅く、あやめの開花が心配されましたが、公園作業員、担当者のご尽力で、6月10日土曜日から7月10日日曜日までのあやめまつりの期間を迎えることができました。

あやめまつりの開園式の10日は、早咲き品種をポットで育てたあやめの鉢を公園入り口近く

やあやめ会館周辺に置かれました。6月10日の開館日に合わせてあやめの花を咲かせよう。公園のあやめが順次咲く早咲き品種のポットのことしの対応は、大変よかったと思います。

開園から10日後の21日、四ツ谷地区ミニデイサービスよつば会の皆さんと、フラワー長井線の電車に乗って南長井駅からあやめ公園駅まで、あやめ公園に出かけました。天気もよく、早咲きのあやめが咲き始め、丈も長く、株も大きくとてもきれいでした。よつば会の皆さんと公園を散策しながら、「満開になったらまだまだきれいだらうね」「次は皆さんも家族の方とあやめ公園に出かけられたらいいね」などと楽しく会話をしました。

その後、24日の土曜日にボランティアで公園に行きました。公園全体のあやめが大分咲いていました。土曜日とあって大型バスでの観光客が多く、観光協会事務局長は、公園内を走って対応されていました。職員の方も早朝から草刈り機で草を刈ってくださったとのことでした。バスからおりた観光客が、時間がたつにつれてどんどん多くなって、この日は花摘み娘ももんぺ姿に手ぬぐいを姉さんかぶりにし、咲き終わったあやめをかごに摘み取っている姿、お客さんは何度もシャッターを切っておりました。また、広場では大道芸のマジックショーも人の輪ができ、親子連れの方も多く、親子で楽しく見ていました。期間中のイベントもたくさん企画され、主催者としては満点だったと思います。

ことしは売店前のフェンスを取り外したことで、売店にお客さんも多く来てくださったと聞いております。

6月末に茨城県の潮来のあやめ公園を会派の皆さんと視察してきました。水郷潮来のあやめ園は「潮来花嫁さん」の歌でも有名で、女性の船頭さんのこぐ舟に花嫁さんが乗ってお嫁に行くほほ笑ましいイベントを今も行っていました。大きな橋からあやめ園を一望できるものでした。

+

しかし、年々あやめ園への観光客も少なくなっているとのことでした。あやめまつりは6月25日で終わり、この日はお客さんはだれもいませんでした。長井のあやめと比べて丈は短く、育て方の違いを感じてきました。

長井には長井古種のすばらしいあやめがあります。郭公鳥、小桜姫、出羽娘、長井小町、長井小紫、かすり乙女、葉山の雪など長井古種13種は、市の天然記念物の指定になっています。長井のあやめをもっと多くの人に見てもらおう努力をしなければならないと思ってきました。

ことしのあやめの生育状況について、観光客の入園状況、特産品の売り上げ状況、感想を含め、市長にお伺いいたします。

次に、今後の取り組みについて質問いたします。

3万3,000平方メートルのあやめ公園内に長井古種を含む500種100万本のあやめやショウブが植栽されている公園。長井にしかない長井古種のあやめが大切に保存されている日本一のあやめ公園。私たちはもっと自信を持って、また、多くの市民にも期間中公園に足を運んでもらえる努力をしなければならないと思っています。

あやめまつりが終わって、暑い中であやめの株分けと植えかえ作業が行われております。明年の準備をなさっているのです。市民への呼びかけとして、アンケートで要望や市民の皆さんの思いをあやめまつりに生かすべきと思いますが、いかがでしょうか。齋藤商工観光課長にお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 谷口議員のご質問にお答えを申し上げます。

まず、食育推進の取り組みについてでございますが、国は平成18年3月31日に開催されました食育推進会議におきまして、食育推進基本計

画を策定しました。その計画は、平成22年度までの5年間で、各都道府県では100%、各市町村では50%以上達成するような目標を目指し、推進計画を作成し、実践するように求めています。

山形県でも副知事を本部長とする夢未来やまがた食育推進本部を設置し、10月を目途に、山形県食育推進計画を策定すべく準備を進めているとお聞きしております。

山形県における食育推進に向けた事業推進の柱は、農林水産部の「食農教育」、健康福祉部の「健康文化やまがた21事業」、そして教育委員会で「実践しているいのち輝く食育推進事業」の3つの柱で食育の推進をする計画のようであります。

山形県の推進計画は、7つの基本的な考えを持っております。1つは、家庭における取り組み、2つは、学校、保育所等における取り組み、3つは、地域における食生活改善のための取り組み、4つは、食育推進活動の展開、5つに、生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等、6つに、食文化の継承のための活動への支援など、7つに、食品の安全性、栄養その他食生活に関する調査研究、情報提供等の推進であります。

長井市におきましても県の推進計画に沿いまして、地域の実態に合わせ、焦点化、重点化をしながら具体的な取り組みをしていく必要があると思っております。

谷口議員のご指摘のとおり、食べることは命そのものに直結することです。まず3度の食事をきちんと取る。特に子供たちに朝食をしっかりと食べてもらう。そして栄養のバランスや食事のマナーなど食生活の大切さについて、次代を担う子供たちに教えていかなければいけません。また、その子供たちを育てている親の方も食育推進の対象にしなければならない残念ながら時代であります。

長井市では現在、関係各課で既に取り組んでおりますが、具体的には、今までも学校給食共同調理場でバイキング給食、それから児童生徒を対象にした栄養士による講話などを実施してまいりました。給食そのものが食育であるという思いであります。また、給食の米はすべて長井でとれる、しかも一番安全安心なレインボー米を使用しております。若干高いわけですが、それはこの長井市でそれを下支えしております。副食の野菜等も極力レインボー野菜を利用するよう、地産地消に努めているところであります。

また、健康課では、生活習慣病の検診の充実や喫煙対策、歯科保健の推進などを通して、食を大切に作る心をはぐくむことを推進しておりますが、ご質問のように健康課長に詳細をお尋ねですから、健康課長から詳細についてはお話をさせていただきます。

食育基本計画の策定について、職場横断的な計画になると思われまますので、まず、各職場の実践活動を検証し、必要とあらばプロジェクトチームをつくって、この食育推進計画に対応してまいりたいというふうに思っているところであります。

次に、あやめまつりの総括についてであります。ご案内のように、雪解けが遅かったこともあり、6月10日の開館日に合わせて咲かせるという目標はなかなか難しかったわけですが、全体として私に届いている市民の声は、ことしのあやめは丈があってきれいだったと、努力の跡がうかがえると、ここ数年よくなってきたという大変お褒めの言葉も多くなりました。5年前でしたか、さんざんだったのを思い出しますと、少し報われてきたのかなと、もちろん現場の方の努力が一番ですがね、うれしく思っているところであります。

あやめ公園の入園料についてですが、商工観光課長からの報告では、全体で1,375万4,838円で、昨年度より53万円減少しました。3.8%。

ただ、入園者数が前年度より1,387名、約3%ふえておりますし、特に長井市民の方が昨年より37.5%、3,392名ふえているという報告を受けました。ことしのあやめの生育がよかったことと、観光協会に事業を委託をした中で、あやめまつりもてなし大道芸、谷口議員も認めていただきましたが、土日に企画したことなど、昨年よりも多くの市民の方が足を運んでくれたということはまことにうれしいことでもありますし、あやめ公園に市民の方が帰りつつある、帰ってきてくれたと、ことしは、37.5%、これは大変大きなことではないかと思っているところであります。今後も市民の方の期待にこたえられるようなあやめまつりにしていかなければならないと思っているところであります。

あやめ公園の売店の売上総額も、これもあやめ会館と物産館両方を合わせますと、昨年度より50万円ほど減少しました。ただ、物産館の売り上げは昨年より100万円増でありますから、あやめ会館が150万円だということになりますね。物産館の売り上げが伸びたことは、北駐車場と物産館の間にあったフェンスを撤去させていただきました。これは市民の皆さんからもご要望があった。いろんな方のアイデアもあった。野尻さんなんかもそういうアドバイスもしてくれたというふうにお聞きしておりますが、物産館に入りやすくなった。それから、商品の陳列とかレイアウト等も大幅に変えたとお聞きしております。したがって、お客さんがお土産を購入したくなる雰囲気を作ろうと少し作り出すことができた結果ではないかというふうに現場では総括をしているところであります。来年度に向けても工夫を凝らしていきたいと思っております。

今後の取り組みについては、商工観光課長ですから、私が申し上げることではないと思っておりますが、7月の改植事業のボランティアにはたくさんの皆さんが来ていただいたという、約50名、ということは大変うれしいことだなというふう

+

に思っているところです。市民の皆さんのそれだけ関心と、それからみずからのあやめ公園をきれいにしようという意欲のあらわれということでありましょうから、こういった気持ちを大切に、今後、商工観光課長を中心に、あるいは観光協会の皆さんと知恵を出し合って、私はよく知恵と度胸、度胸というのは余りいい言葉ではない。やってみるとのことです。いいと思ったことはやってみると。やりながら少しずつ改善をしていくということだと思いますが、知恵を出し合っていて、市民の皆さんに大いにご協力をいただきながら、今後すばらしいあやめになるように取り組みをしてまいりたいというふうに思っているところであります。

残余の質問につきましては、健康課長、商工観光課長、教育長さんにもということですから、お答えを申し上げます。

○大沼 久議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 谷口議員の栄養教諭の学校配置についてということでお答えをします。

現在、長井市には2人の管理栄養士さんが県費職員として配属になっています。それぞれ長井小学校と平野小学校所属になっているんですけども、長井市は共同調理場方式ですので、共同調理場で勤務をしてもらっているということです。そのうちお一人の方は今年度栄養教諭の資格を取りました。もう一人の方も来年度資格を取る予定になっていますが、栄養教諭の資格を持っているからといって栄養教諭ではありません。教員免許状を持っているというのと同じで、県の採用試験に合格すれば栄養教諭になります。長井市の児童生徒数ですと県費の栄養職員の定数は2名になりますので、現在より県費の職員がふえるということはありません。ですから、各学校に配置するという余裕は今のところありません。

栄養教員に採用された方が配属するとどうい

うことになるかということ、今も管理栄養士さんの方は学校でいろいろ、バイキング給食時の指導とか、またはTT授業での補助とかやってもらってるわけですが、長井市の教育委員会として非常勤講師の辞令を出してはいますけども、栄養教諭になればその必要がなくなります。あとは給与面でも若干高くなるということで、本人にとってはメリットが出てきます。

山形県では今年度1人栄養教諭が採用されて、現在県のスポーツ保健課に勤務していますけども、来年度以降も、教員採用試験、全体的に厳しい状況ですけども、栄養教諭の採用もわずかですがやっていくような方向であるという話も聞いていますし、各市町村の共同調理場とか自校給食をやっているある程度の規模の学校には、欠員が出た場合、定員枠内で配置される可能性はあるということです。以上です。

○大沼 久議長 船山祐子健康課長。

○船山祐子健康課長 では、谷口議員のご質問にお答えいたします。

議員が冒頭でお話しされました市報掲載の内容でございますが、それ、こちらでございます。こちらの三角形のこまのようなものでございまして、これは平成17年6月に厚生労働省で作成いたしましたものです。1日に何をどれだけ食べたらいいか。望ましい食事のとり方やおおよその量をイラストで示してございまして、大変わかりやすく、参考に載っております。食事バランスガイドというふうな名目で載せておりますけれども、こちらが妊婦向けです。妊婦向けと、あと子供向けと、あと中高年向けということで、3つのパターンによって、それぞれの年代に合わせて活用させていただいているところです。

それでは、具体的な健康課の取り組みということでお話しいたしますけれども、今言ったように、妊婦対象にはパパママ教室、調理実習を行っております。あと妊婦と祖父母対象にこれから生まれてくる赤ちゃんの離乳食ということ

と、あとは食生活についての正しい理解というふうなことを含めまして、離乳食指導と調理実習も行っております。あと乳幼児健診ですけれども、こちらはバランスよく食べる目安として、栄養素をイラストでわかりやすくしました。こちらも持ってきましたが、ランチョンマットというのを健康課で考案してつくっております。これによって1日にすべての素材を食べれるかなということ、つくる親をまず、つくって食べさせなければいけないというふうな意識づけ、あと子供さんには好きなものばかり食べないでバランスよく食べるようにというふうな目的で活用していただいております。

あと幼稚園児や小学生を対象にいたしましては、子供のための食事教室というふうなことで、バランス食と調理実習を実施しております。あと各小学校の年2回開催しております学校保健委員会へ保健師が参加させていただいておりますので、その中でも食育についての重要性を説明させていただいております。

あと中高年を対象といたしましては、生活習慣病と呼ばれておまして、メタボリックシンドロームの予防として、各種養成講座の開催や健康診断後の栄養指導等を行っているところで

また、長井市食生活改善推進協議会の会員、平成18年度は164名の方がいらっしゃいます。その方々の協力のもとで、市民の方々へ知識の普及啓蒙活動を担っていただいているところでございます。

食生活と心のバランスということですが、心を穏やかにするセロトニンという物質がございます。そのセロトニンという物質を高める働きがリズムカルな筋肉運動だと言われておまして、具体的に申しますと、物をかんだり、歩いたり、深呼吸をしたり、早く起きて朝の光を浴びるというふうなことによって、一層働きが高まると言われております。脳の中でセ

ロトニンをつくるためには食生活に注意が必要で、牛乳、シラス等、大豆、ゴマ、カツオ、小麦などを多く取り入れましてすることが大切だとも言われております。

朝食を抜いて、ジャンクフードと言われているファーストフード中心の食生活が、キレやすい子供がふえている一因ともなっているということも議員おっしゃるとおりと言われております。

議員がお話しされたとおりに、早寝、早起き、バランスのよい食事をして、規則正しい生活をするのが、心のバランスのとれた状態になるものと思っております。こちらでは説明しているところでございます。その当たり前のことを実行することがなかなか難しい世の中になってきているということも今こそ認識して、少しでも基本に近づけることができるよう、みんなが気づいて少しでも行動の変容に結びつくように、健康課といたしましても今後とも取り組んでまいりたいと思っております。以上でございます。

○大沼 久議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 2番目の今後の取り組みについてお答えしたいと思います。

一つは、自信を持ってあやめ公園に足を運んでもらえるような努力が必要だというふうなご指摘でございます。公園の管理、育成についての技術研修を今後ともきちっとやっていきたいというふうに考えてございます。

それから、改植ボランティアというふうなことで、市長の方からもお話があったわけなんです、公園とのかかわりというふうなことを市民の皆さん方と連携して、いい関係をつくっていききたいというふうなこと、それからもう一つは、そうしたふうな活動の中で、市民の皆さん方が自主的にあやめ期間中は長井のまちをあやめでいっぱいにとしようと、それを私たちが外からおいでの方に表現をしようというふうな、そんなふうな形になればありがたいなというふう

+

に考えておるところでございます。

それから、アンケート等で市民の皆さん方のお考え、ご意見等を吸収すべきであると、反映すべきであるというふうなご意見でございますが、全くそのとおりというふうに考えてございます。まだ観光協会の皆さん方とのあやめ公園についての集約作業というふうなものは、これからあるのかなというふうに思うのでありますが、私どもの方の職員に対しては、公園等であつたらば、いろんなお話を聞いてくださいと、いいことも厳しいことも、とにかく聞きましよう、その中からいろんな情報があるだろうというふうなことをとにかく作業員も含めてお願いをしております。そういった中で、生の声を直接聞くというふうな現場において、そういったふうな訓練をしていかないといけないだろうなど、そういったものが少しずついいお祭りになったというふうなことではないかというふうに思います。

+

また、改めてアンケートというふうな形でなくても、祭りの事業とあわせた形で訪れた方のご意見を伺うと、聴取するというふうなことも考えられるのではないかなというふうに思います。

まだまだ技術的にも不十分な点、あるいは管理についても不十分な点がありますが、とにかく少しずつでも改善して、皆さん方、長井市民の方に私たちのあやめ公園は最高だというふうなことで感じてもらえるような祭り、それから公園にしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

○4番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

先ほど市長からも総括として、本当に5年前のあやめと比べて、あやめ公園はみんなの努力、業者や担当者の努力が実ってよくなっている。市民も戻ってきている。本当にうれしいデータを、今、教えていただきました。まだまだ長井のあやめの認識は本当に、ほかの人から教えて

もらえるような状況で、私も潮来の、茨城に行って初めて、長井のあやめって本当にすごいんだというのを感じてきたところですけども、やはり市民の皆さんにもそういう呼びかけなどが必要なのではないかな。

また、ことしは寂しいなと思ったのは、毎年駅前通りとか商店街にあやめの鉢があやめ期間に並ぶんです。ことしはそれがなかったので、本当にそういう取り組み、まちと一体となった取り組みなども大事なのではないかなというふうに思います。その点、何らかの形でそういう方法をとって、再び市民の皆さんもあやめに対する意識、まちの中でもあやめが見れる。また、長井古種を本当にみんながわかってるって、どれが長井小町かとか、そういう花の名前をやっぱりもっと覚えられるような何かそういう取り組みをこれからしていかなければいけないのではないかなというふうにも思っておりますが、その点、市長からお答えいただきたいと思えます。

+

また、健康課長から詳しい答弁をいただきまして、本当に頑張っていたいでいる。それぞれの年代に合わせての取り組みをなさっていただいているということで、感謝しております。ミニデイサービスなどの協力員をしておりますと、商工会の皆さんが食事サービスを提供してくださっている。本当にこれもありがたいことで、ぜひそのときに栄養のバランスのとれた食事とか、そういうお話なんかも含めながら、回数をふやしていただけたらいいなというふうに感じますが、その辺の方は、健康課長、これからの取り組みとしてはどうでしょうか、教えてください。

また、商工観光課長に、あやめが終わりますと、あやめ期間は6月10日から7月10日までの1カ月間ですが、本当に1年を通して1カ月間の期間のために、多くの業者やボランティアの皆さんの力をかりてきれいな花を咲かせてい

るわけですがけれども、今、長井市はフットパス、まちなか観光という事業にも取り組んでいるわけで、あやめが終わっても、やはり公園に足を運ぶ人、近くの人には散歩する人もいますけれども、行ってみますと、やっぱり物すごく変貌してるんですよ、草がぼうぼうで。やはり通年のつつじ公園のような管理、少し近づいていかなければいけないのではないかな。そのためにももう少し公園の整備というか、そういう管理に対して、通年のあやめ公園という取り組みに対してはどのようにお考えか、教えていただきたいと思います。

以上、お願いします。

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 谷口議員ご指摘のように、あやめのとくに、6月10日から7月10日までですね、それはまちなかでも、例えば他市ではいろんなあやめの展覧会等々もやっていますし、市役所等も玄関先とかいろんなところでやっておりますが、もし駅前通りであるとか駅であるとか、あるいは商店街のところが少し寂しいというふうにお考えだとすれば、これは商工観光課長、今聞いておりますから、来年の反省点に加えて、また、まちを挙げて、そういったよそから来た皆さんからも、あやめまつりなんだと、じゃあ公園に行ってみようかというふうになるような雰囲気づくりを考えていきたいというふうに思います。

○大沼 久議長 船山祐子健康課長。

○船山祐子健康課長 お答え申し上げます。

17年度につきましては、ミニデイサービスへの協力を食生活改善推進協議会の方々に10回ほどお願いしてございまして、285人の方が利用されております。そのほかに健康課で栄養士がおりますので、栄養士も、実習は伴いませんけれども、栄養の講話ということで、6回ほどミニデイの方にお邪魔させていただいております。調理実習につきましては、公民館等、皆さんで、

調理のできる体制であれば、要望していただければ行けますし、あと講話になりましては、栄養士の日程調整をさせていただいて、要望があれば幾らでも派遣させますので、どうぞご要望ある場合は申しつけてください。以上でございます。

○大沼 久議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

まちなか観光に係るあやめ公園の通年的な整備のあり方と、管理のあり方というふうなご指摘かなというふうに思います。

先ほど私の答弁の中で、まだまだ不十分な点があるというふうなお話をさせていただきました。公園自体の年間を通した管理のあり方というのは、必ずしも十分に行き届かない部分があるというふうに認識してございます。

ただ、つつじ公園の、何ていいますか、木といますか、木と、あやめ公園のあやめという植物の場合には、どうしても若干公園としての形態が異なってくるというふうな状況がございます。その点をご理解をいただきながら、あやめ公園の周辺の草木等、ある程度いい形でご利用いただけるような形でやっていかないといけないなというふうに考えてございます。基本的にはやっているというふうなことなんです、必ずしも十分な形に見えてこないというふうな状況がございます。ご理解いただきたいと思っております。

○大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

○4番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

先ほど教育長の答弁の中で、なかなか栄養教諭は、長井市ではもう2名いるので、ちょっと大変だというような話だったんですけども、全国では25名か29名ぐらい新しい教諭がふえている。また、全国で本当に多くの栄養教諭を採用というか育成というか、なさっている県は、多いところではどういう取り組みをしているのか、もしお答えいただけたらお願いしたいと思いま

+

す。

○大沼 久議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 これも山新の方ですか、この前栄養教諭の全国的な配置状況が報道されましたけども、北海道、福井、鹿児島なんか69名ぐらいになっておりますよね。山形県は1人と。24道府県ということですので、まだまだ栄養教諭1人もいないという県も多数、24ですから、23ぐらいあるわけですよね。県の方でも、さっきも申し上げましたけども、置賜管内であれば、県費職員の栄養職員は16名が枠なんだそうです。そのうち長井市は2名ということは、児童生徒数が1,500までが1人、1,501から6,000までが2人というふうなケース枠があって、長井市は2,730前後ですので、2人の定員枠だと。

もしも各学校に栄養教諭を配置するとなれば、市単独でやる以外ないわけですから、そういう財政状況でもありませんし、栄養教諭の配置が優先度が高いかという、学校現場ではそうは考えてないと。私も考えていないし、特殊児童の支援とかそういうふうな、ADHDとかLDの支援をどうしていくかという問題もあるわけですし、いろんな面で優先順位を考えた場合、市で単独で配置するようなものでもないというふうに私は考えていますし、じゃあ食育をやっていないかといえば、さっきもあったように、いろんな関係各課が関連して食育を推進しているという状況ですので、市長の方からもありましたけども、推進計画にのっとって、やっぱり重点的にそれぞれの課で連携しながら進めていく必要があるのかなというふうに思っているところです。以上です。

○大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

○4番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

先ほど市長の答弁の中でも、山形県でも副知事を中心に食育に対しての取り組み、いのち輝く食育ということで、7つの分野に分けてプロ

ジェクトが始まっている。本当にうれしい活動が県で行われているわけです。ぜひ県での活動を受けながら、長井市でも7つの各分野で充実した取り組みを進めていただきたいと思います。

また、北海道の三笠市では、小学生の子供の給食費を無料化しておられます。長井でもレインボー米を中心として、ほかの市町村に誇るレインボーの取り組みをしております。長井市の誇りだと思いますので、野菜の地産地消を含めながら、安全な食事の提供を、学校、バイキング式の方式で、これは年に何回なさっているのか、バイキング方式の給食は。教育長にお聞きするとよろしいんですか。その辺、もう一度お聞きして、終わりいたします。

○大沼 久議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 各小学校、年1回。中学校の場合ですと3年生対象。小学校も6年生対象にやってるようです。

○大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

○4番 谷口栄子議員 このバイキングは、全生徒にふやす方法はないんでしょうか。ごめんなさい。もう一度お聞きして終わりにします。

○大沼 久議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 調理場の関係で、それだけの食数をつくれなないだと思います。

○4番 谷口栄子議員 済みません。市長に最後お聞きして終わりにいたします。

○大沼 久議長 谷口栄子議員に申し上げます。挙手して。

4番、谷口栄子議員。

○4番 谷口栄子議員 失礼しました。

最後にじゃあ市長からお願いいたします。

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 これはやっぱり教育委員会の所管でありまして、教育委員会が、今、教育長が申されたと思いますが、教育委員会で検討して、なるべくやっぱりバイキングなんかはできれば多くした方が私はいいいと思いますけども、教育

委員会で検討していただきたいと思います。

散 会

○大沼 久議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は、明日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 2時59分 散会

+